

**NGO-JICA協議会**  
**2024年度第2回 議事次第**

日時	2025年3月11日	15:00 - 17:00	
参加者	オンライン / 竹橋	参加者	別紙参照<資料0>
司会	NGO	記録	JICA

【議題】

		開会挨拶	15:00 ~ 15:05 ( 0:05 分)	JICA理事 小林 広幸 外務省国際協力局 NGO協力推進室 室長 岩上 憲三
1	協議	JICAにおけるサステナビリティ推進	15:05 ~ 15:30 ( 0:25 分)	
	時間配分	JICAの取組説明	15:05 ~ 15:20 ( 0:15 分)	JICA企画部サステナビリティ推進室
		質疑応答	15:20 ~ 15:30 ( 0:10 分)	
2	協議	HDPネクサス(人道・開発・平和の連携)の推進に向けたNGO-JICA間の連携強化	15:30 ~ 16:05 ( 0:35 分)	
	時間配分	勉強会の実施報告と今後に向けた協議	15:30 ~ 15:45 ( 0:15 分)	公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会
		JICAコメント	15:45 ~ 15:55 ( 0:10 分)	JICAガバナンス・平和構築部 平和構築室
		質疑応答	15:55 ~ 16:05 ( 0:10 分)	
3	報告	市民参加協力事業の現状及び今後の方向性	16:05 ~ 16:50 ( 0:45 分)	
	時間配分	2023年度第2回NGO-JICA協議会フォローアップ等	16:05 ~ 16:15 ( 0:10 分)	JICA国内事業部 市民参加推進課
		草の根技術協力事業 担い手拡充 (JICA機構法改正)	16:15 ~ 16:25 ( 0:10 分)	JICA国内事業部 市民参加推進課
		NGO・NPOとJICAの協働について(外国人材受入れ・多文化共生社会構築に資する取組)	16:25 ~ 16:35 ( 0:10 分)	JICA国内事業部 市民参加推進課
		質疑応答	16:35 ~ 16:50 ( 0:15 分)	JICA国内事業部 市民参加推進課 ※機構法への質問内容によっては、JICA企画部が対応
		閉会挨拶	16:50 ~ 16:55 ( 0:05 分)	関西NGO協議会 事務局長・理事 栗田 佳典

※資料

- 0 参加者リスト
- 1 JICAにおけるサステナビリティ推進
- 2 HDPネクサス(人道・開発・平和の連携)の推進に向けたNGO-JICA間の連携強化
- 3 市民参加協力事業の現状及び今後の方向性

コーディネーター

	氏名	所属	職位
1	栗田佳典	特定非営利活動法人関西NGO協議会	事務局長・理事
2	佐藤優	特定非営利活動法人NGO福岡ネットワーク (所属:特定非営利活動法人ISAPH)	事務局長 (ISAPHの職位)
3	加瀬貴	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会	事業サポート課長/ラオス事務所長
4	門田瑠衣子	特定非営利活動法人エイズ孤児支援NGO・PLAS	代表理事
5	中島隆宏	特定非営利活動法人名古屋NGOセンター	代表理事
6	小野行雄	特定非営利活動法人横浜NGOネットワーク	理事長
7	中村絵乃	特定非営利活動法人開発教育協会	理事・事務局長

NGO参加者(順不同、敬称略、個人情報を配布資料・JICAホームページに掲載することに同意いただいた方のみ)

	氏名	所属	職位
8	榎本恵	一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会	代表理事
9	田中博	一般社団法人参加型評価センター	代表理事
10	坂西卓郎	公益財団法人PHD協会	事務局長
11	矢加部 咲	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会	事業サポート課チーフ
12	真屋友希	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会	事業サポート課チーフ
13	加藤 陽一	中堅NGO研究会	事務局長
14	白幡利雄	特定非営利活動法人AMDA社会開発機構	海外事業運営本部長
15	吉椿雅道	特定非営利活動法人CODE海外災害援助市民センター	事務局長
16	降幡博亮	特定非営利活動法人DPI日本会議	常任委員
17	安東久雄	特定非営利活動法人ISAPH	事務局次長
18	石塚 貴章	特定非営利活動法人ISAPH	職員
19	安村 妙	特定非営利活動法人NGO福岡ネットワーク	事務局長
20	藤岡恵美子	特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会	事務局長
21	中野 貴行	特定非営利活動法人Piece of Syria	代表理事
22	有満麻理	特定非営利活動法人シェア=国際保健協力市民	海外事業担当
23	福井美穂	特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン	マネージャー
24	ポーマン真理子	特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン	アジアパシフィック地域マネージャー
25	望月亮一郎	特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン	支援事業第1部 部長
26	小俣典之	特定非営利活動法人横浜NGOネットワーク	エグゼクティブプロデューサー/常務理事
27	岡島克樹	特定非営利活動法人関西NGO協議会/大阪大谷大学	理事/教授
28	富永幸子	特定非営利活動法人国際協力NGO・IV-JAPAN	代表理事
29	堀内 葵	特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)	シニアアドボカシーオフィサー
30	若林秀樹	特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)	理事/THINKI Lobby所長
31	渡邊亮太	特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)	契約職員
32	宇賀神幸恵	特定非営利活動法人四国グローバルネットワーク	ESD担当
33	鈴木克徳	特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)	国際担当理事
34	田丸敬一郎	特定非営利活動法人難民を助ける会(AAR Japan)	プログラムコーディネーター
35	奥井利幸	野毛坂グローバル	代表

JICA参加者

	氏名	所属	職位
1	小林 広幸		理事
2	中根 卓	国内事業部	部長
3	小林 洋輔	国内事業部	次長
4	松元 秀亮	国内事業部 市民参加推進課	課長
5	服部 由起	国内事業部 市民参加推進課	職員
6	東 万梨花	国内事業部 市民参加推進課	職員
7	横田 裕子	国内事業部 市民参加推進課	専門嘱託
8	宮崎 清隆	財務部	次長
9	松本 颯太	財務部	副調査役
10	室谷 龍太郎	企画部	次長
11	田中 伸一	企画部	参事役
12	湯本 真知子	企画部 総合企画課	企画役
13	磯野 皓一	企画部 総合企画課	職員
14	見宮 美早	企画部 サステナビリティ推進室	特命審議役
15	広瀬 恵美	企画部 サステナビリティ推進室	副室長
16	山中 祥史	ガバナンス・平和構築部 平和構築室	企画役
17	ボンド ハンナ	地球環境部 水資源グループ	職員
18	加瀬 晴子	東京センター 市民参加協力第二課	課長
19	大井 明子	関西センター 市民参加協力課	課長
20	三宅 展子	関西センター 市民参加協力課	職員
21	新川 美佐絵	中国センター 市民参加協力課	職員
22	川崎 裕美	中国センター 市民参加協力課	専門嘱託
23	大須賀 亜希子	フィリピン事務所	NGOデスク
24	五十嵐 和代	ミャンマー事務所	企画調査員

オブザーバー参加

	氏名	所属	職位
1	岩上 憲三	外務省 国際協力局 NGO協力推進室	室長
2	鷲尾 徹	外務省 国際協力局 NGO協力推進室	外務事務官

(順不同、敬称略、個人情報配布資料・JICAホームページに掲載することに同意いただいた方のみ)

# JICAにおける サステナビリティ推進

国際協力機構（JICA）  
企画部サステナビリティ推進室



# JICAサステナビリティ方針の公表

- サステナビリティ推進に関する中長期的な目標と取り組みの方向性を示すものとして「JICAサステナビリティ方針」を2023年10月に公表

## JICAサステナビリティ方針

JICAは、「人間の安全保障」の理念に基づき、「質の高い成長」を通じた持続可能な世界の実現に向けて取り組んできました。急速に変化する世界情勢下で、開発協力においてJICAが果たすべき役割は、より一層重要となっています。「信頼で世界をつなぐ」というビジョンの下、**経済・社会・環境の三側面が調和し、将来世代に負担を残さない「持続可能な世界の実現」を目指します。**

JICAは開発途上国のSDGs達成を支援する組織です。その名に恥じぬよう自らの組織運営も見直し、持続可能な世界を目指す一員として、取るべきアクションを迅速に実行します。新しい開発協力大綱の下、JICAは、以下を重点的に推進していきます。

- 気候変動対策として、**全新規事業をパリ協定に整合する形で実施することを目指します**<sup>1</sup>。気候変動を軽減する緩和策とともに、気候変動にも強靱な社会の実現に向けた適応策を実施し、開発途上国の社会全体のトランジションを支援します。
- 地球環境の保全は未来に対する責任であり、海洋環境・森林・水資源の保護等の自然環境保全の取り組みを強化し、**生物多様性の主流化を推進**していきます。
- **基本的人権を尊重**するとともに、ジェンダー平等を含むダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンを推進し、多様な人材が生き生きと活躍し、成長できる機会と環境を創ります。
- 国際開示基準を踏まえた**正確かつ透明性のある情報開示**を行います。
- 日本政府による「2050年カーボンニュートラル宣言」を踏まえ、**2030年までに組織のカーボンニュートラル達成**<sup>2</sup>を目指します。
- サステナビリティ委員会およびサステナビリティ推進室を軸に、サステナビリティ推進に向けた**ガバナンスと組織全体による取り組みを一層強化**します。

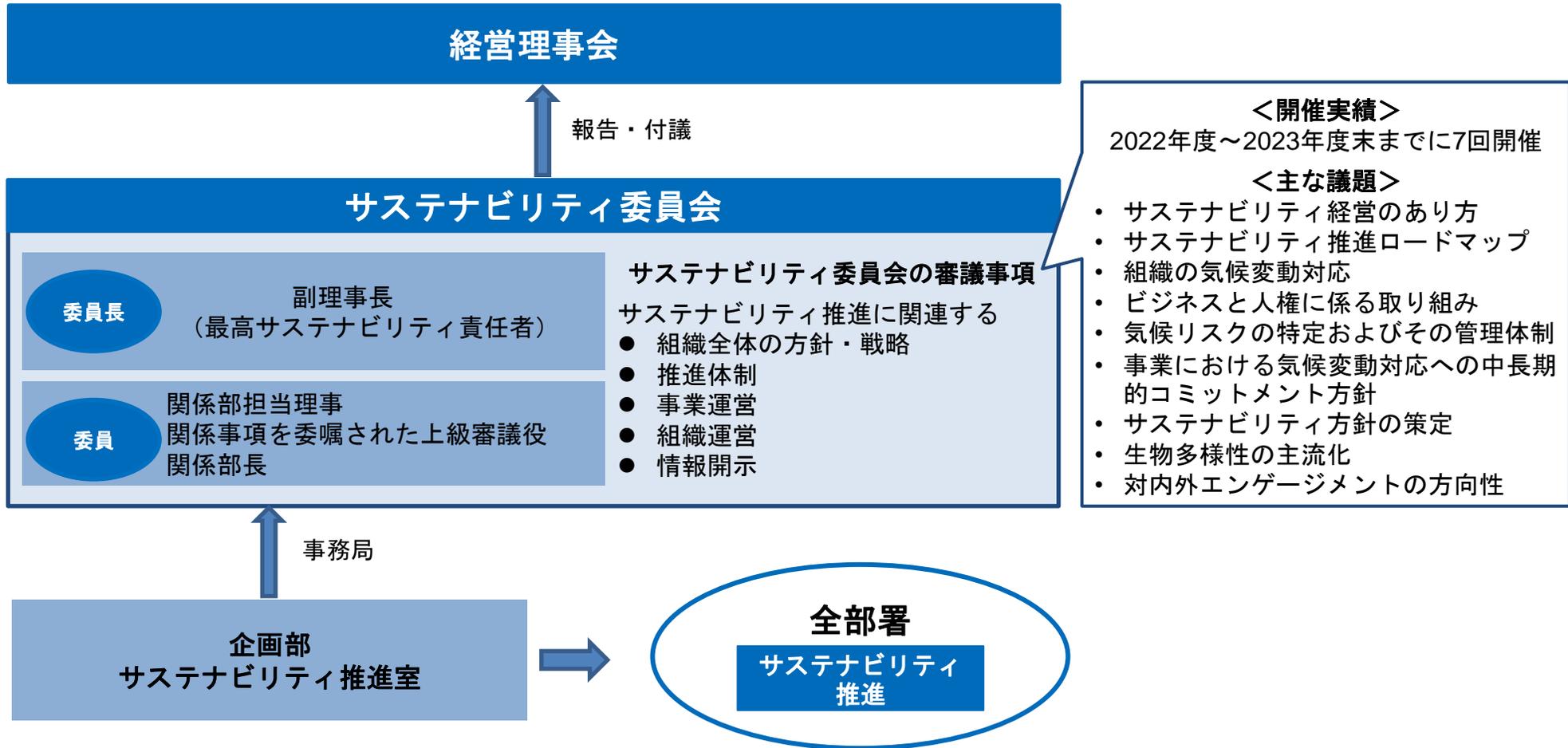
複雑に絡み合った課題を一国だけで解決することはできません。このような取り組みを通し、開発途上国などのさまざまなパートナーとの信頼を築き、課題解決に向けた協働・共創を加速して、よりよい世界の実現に貢献していきます。

<sup>1</sup>パリ協定は2015年の国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）で採択、2016年に発効した気候変動問題に関する国際的枠組み。JICAとして、全新規事業を同協定に整合させることを目指し、2023年から整合プロセスの準備を開始し、迅速かつ段階的に取り組み中。

<sup>2</sup>温室効果ガス排出量算定・報告の国際基準であるGHGプロトコルのScope 1及び2を対象（本部・国内拠点のみ、在外拠点は段階的に検討）とします。

# JICAにおけるサステナビリティ推進体制

- サステナビリティ推進のため、2022年度よりサステナビリティ委員会やサステナビリティ推進室、最高サステナビリティ責任者の設置などの体制を構築。



# 個別重要事項：気候変動に関する取組

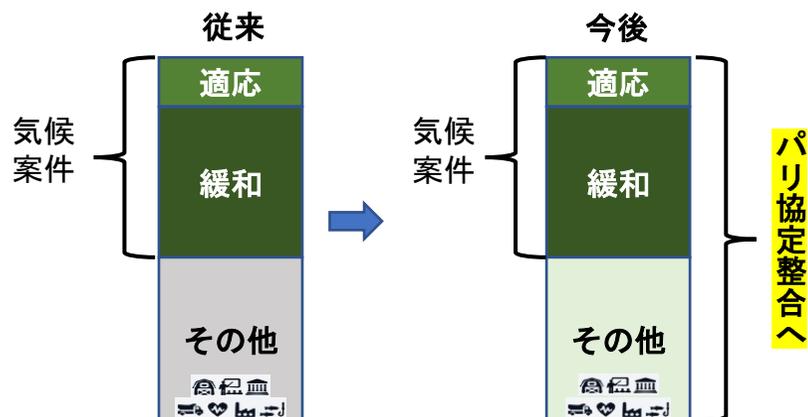
## JICAサステナビリティ方針（抜粋）

- **全新規事業をパリ協定に整合する形で実施することを目指します。** 気候変動を軽減する緩和策とともに、気候変動にも強靱な社会の実現に向けた適応策を実施し、開発途上国の社会全体のトランジションを支援します。
- 日本政府による「2050年カーボンニュートラル宣言」を踏まえ、**2030年までに組織のカーボンニュートラル達成\*を目指します。**

\* 温室効果ガス排出量算定・報告の国際基準であるGHGプロトコルのScope 1及び2が対象（本部・国内拠点のみ、在外拠点は段階的に検討）

### 全新規事業のパリ協定の目標に整合

従来より気候案件とされていた案件以外にも気候の視点を導入



### 2030年までの関連目標

指標	2023年 (実績値)	2030年 (目標値)
気候資金	2兆2195億円	1兆円（2025年まで）
事業のGHG排出削減量	150.5万トン/年	400万トン/年
組織のGHG排出量	2,583トン (スコープ1)	ネットゼロ (スコープ1・2)
	6,965トン (スコープ2)	

### 直近の取組

- G7サミット首脳コミュニケを踏まえた、排出削減措置が講じられていない石炭火力発電所・化石燃料案件に対する日本政府方針の遵守
- 環境社会配慮ガイドラインに基づく一定量を超える温室効果ガス発生が見込まれる場合の公表
- シナリオ分析によるリスク把握を試行
- 円借款における「気候変動に強靱な債務条項（CRDC）」を導入するためのパイロット・プログラムの開始を含む適応策推進をCOP29で発表

# 個別重要事項：生物多様性に関する取組

## JICAサステナビリティ方針（抜粋）

- 地球環境の保全は未来に対する責任であり、海洋環境・森林・水資源の保護等の自然環境保全の取組みを強化し、**生物多様性の主流化を推進**していきます。

### 自然環境保全・回復の推進

- 開発途上国における陸・海域の生物多様性保全に向けて、下記の重点取組を推進。
  - ✓ 政策・計画策定
  - ✓ 地域住民との保全活動の実践・モデル化
  - ✓ 科学的情報基盤の整備
  - ✓ 他機関との連携推進

### 生物多様性・NbS主流化

- 水資源管理、防災・減災のために生態系を保全・回復・持続的に管理する「自然に基づく解決策（Nature-based Solutions：NbS）」の重要性への認識が拡大。
- 農業、水資源、防災、都市開発等の分野におけるNbSの主流化を推進。

### 環境社会配慮ガイドラインに基づく取組

- 環境社会配慮ガイドラインに基づき自然生態系への負の影響を回避・緩和。
- 実施する全事業が重要な生息地・森林の著しい転換・劣化に繋がることがないように、事業対象地が国内法・国際条約等における保護が必要な地域・貴重種の生息地に該当しないことを確認。

## 生物多様性・NbS主流化の事例：NbSを活用した防災・減災

西バルカン地域では、NbSを浸透させるため森林火災対策に加え、生態系を活用した防災・減災の試行的に導入（例：コソボでの雪崩被害予防のための雪崩防止林の整備等）

# 個別重要事項：社会（人権、ジェンダー、多様性など）に関する取組

## JICAサステナビリティ方針（抜粋）

- **基本的人権を尊重**するとともに、ジェンダー平等を含むダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（多様性・公正性・包摂性）を推進し、多様な人材が生き活きと活躍し、成長できる機会と環境を創ります。

### 人権への取組

JICAは人間の安全保障の考え方を事業に反映することで、開発途上国における人権の保障を目指す。

- 社会・経済インフラの整備、農業開発、保健医療や教育の改善などの協力
- 公共放送の機能強化、人権保障の基盤となる法制度の整備、障害者の権利保障、ジェンダーに基づく暴力被害者支援など

人材育成の一環として、2024年に「ビジネスと人権」分野での初の研修を、相手国の人権政策策定・実施を担う行政官や裁判官向けに実施

### 調達における人権尊重

2024年9月、「当機構の調達における人権尊重について」を公表。調達に参加する企業に、日本政府の『責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン』を踏まえた人権尊重の取組みの検討を依頼。

### ジェンダー平等への取組

#### ● 事業のジェンダー

下記を含む目標を設定し、あらゆるJICA事業でジェンダーの視点の取組を取り入れことを推進

指標	2023年度 (実績値)	2026年度 (目標値)	2030年 (目標値)
全事業に占めるジェンダー案件割合	45.5%	40%	80%
研修・留学事業女性 人数割合	34.7%	40%	50%

#### ● 組織のジェンダー

組織としての人財戦略を策定、育児休業取得率、男女間賃金格差、女性管理職比率を指標に取組む。

指標	2023年度 (実績値)	2026年度 (目標値)
女性管理職比率	26.9%	27%

# サステナビリティ推進に向けた組織内外とのエンゲージメント

## 対外エンゲージメント

積極的に国内外の議論に加わるため、下記を含む様々なイニシアティブに参加。

### TCFDコンソーシアム

効果的な情報開示や開示情報を金融機関等の適切な投資判断に繋げるための取組を議論する同コンソーシアムに参加



### TNFDフォーラム

TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）の議論を支援する同フォーラムに参加



### Asia Transition Finance Study Group(ATFSG)

アジアの公正かつ秩序ある移行の実現を支援するための銀行を中心とした同イニシアティブに参加



### 2X Challenge

女性の経済的エンパワメントに向けた官民投資動員のためにG7の開発金融機関が設立した同イニシアティブに参加



## 対内エンゲージメント

サステナビリティ推進に向けて、組織内での双方向のコミュニケーションを強化中。

指標	実績
勉強会・セミナー・研修等回数	30回以上
参加人数	1800人以上

## 情報開示

個別に発行していた「年次報告書」と「サステナビリティ・レポート」を統合し、「統合報告書」として公表。



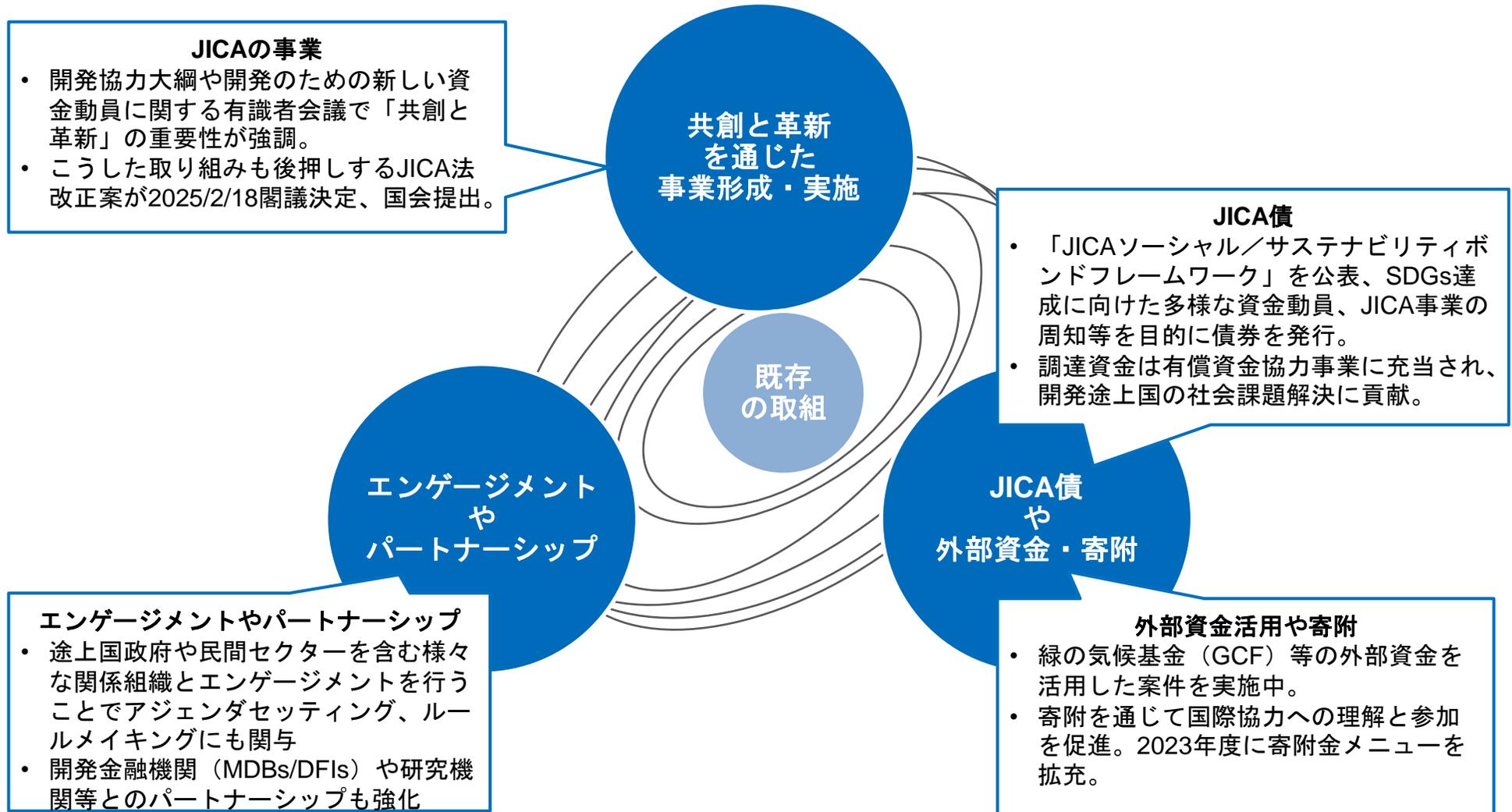
統合報告書  
QRコード



JICA  
Report 2024

# 共創と革新を通じたサステナビリティ実現への貢献

- JICA債などを含め民間資金動員を図り、これまでの事業のインパクトを増幅させ、世界におけるサステナビリティ実現に貢献していきます。



## 2024 年度第 2 回 NGO-JICA 協議会議題

### 提案者

所属団体: シャンティ国際ボランティア会

役職: 事業サポート課課長兼ラオス事務所所長

氏名: 加瀬貴

### 議題提案タイトル

HDP ネクサス(人道・開発・平和の連携)」の推進に向けた NGO-JICA 間の連携強化についての勉強会の実施報告

### 提案の背景(400 字以内)

近年、紛争の長期化や複合的な人道危機の増加により、開発・人道・平和の観点を統合した「HDP ネクサス」に基づく支援アプローチが国際的に重視されている。JICA は、グローバル・アジェンダの一環として HDP ネクサス推進を掲げており、NGO は現場に密着した支援を通じて、政府機関や国際機関と協働しながら、HDP ネクサスの考えに基づく活動を実践してきている。今年度、2 回の勉強会を通じて、JICA および NGO の HDP ネクサスに関する取り組みを共有し、双方の強みを活かした具体的な協力の方向性などを協議してきた。

### 論点(400 字以内)

NGO 側から以下 2 点の共有を行い、JICA よりコメントをいただきたい。

成果の共有①: 第 1 回勉強会の報告概要、参加者アンケート結果、発表者からの所感コメントの共有

成果の共有②: 第 2 回勉強会の協議結果の共有(例: NGO と JICA が相互に補完し合うための連携の在り方案の概要)

## 第2回 NJ 協議会議題

「HDP ネクサス（人道・開発・平和の連携）」の視点に基づく  
NGO-JICA 間の連携促進について、勉強会実施報告（全2回）

### ○第1回勉強会概要の報告

【開催日】2025年1月10日(金)

【参加者】JICA10名、NGO側10名

【内容、一部抜粋】

・NGO2団体とJICA平和構築室から、HDPネクサスにかかる各団体の援助方針、プロジェクト事例共用、及び登壇者による双方の強みと連携事例の意見交換を行った。

・NGO側から、JICA事業との連携においては、特に地方行政機関の能力強化に関わる活動における協働を期待する声、JICAのマクロレベルの支援実績（例：中央レベルで策定された政策など）を、草の根レベルに浸透拡大することにNGOの強みがあるといった意見が上がった。

・JICA側から、NGOは地域情勢に精通し、コミュニティ・エンパワーメント手法に強みを持つなど、NGOの強みをJICAの事業アプローチに生かすことが効果的であること等、NGOとの連携強化を期待するといった意見が上がった。

【次回要望、事後アンケート結果】（8名より回答をいただく）

・議論時間の延長を希望すること、JICAとの連携方法の具体化を目指すこと、ローカライゼーションに対する対応についての関心等の意見があった。

### ○第2回勉強会概要の報告

【開催日】2025年3月6日(木)

【参加者】JICA4名、NGO側16名

\*上記、第1回の勉強会を踏まえて、第2回勉強会では以下の論点等で議論した。

【協議内容（一部抜粋）】

① NGO-JICAはどうやって連携を構築しているか？

1. 事業対象国内および日本国内での定期的な連携機会の創出

・NGO在外事務所とJICA在外事務所間で事業内容の日常的な共有が行われてるケース、現地で開催される勉強会やワーキンググループで意見交換をしているケース、さらにこれらの日常的な接触から連携が始まるケース等が共有され、現場での密なつながりが連携において重要である点が指摘された。他方、日本国内では、NGO本部とJICA本部間において、在外事務所間のような、接点を構築していくことの重要も指摘された。

・NGO-JICA両者の強みを生かす戦略として、JICAが支援した中央レベルの政策策定やナショナルレベルでの事業効果を、NGOは難民キャンプ等、脆弱層を多数抱える地域、セキ

ユリティリスクが高い地域などで、アウトリーチをしていくことができる点が1回目に引き続き指摘された。

## 2. 事業策定から実施時における連携

・ NGO と JICA 間において、両者の援助方針が必ずしも一致するわけでない。事業の策定段階から協働する機会を作ることが重要であり、たとえば事前調査の段階から連携し、NGO と JICA が対象国の援助に関するビジョンを共有することが大切である点が指摘された。

### ② 連携に当たって、改善していく点は何か？

#### 1. NGO-JICA の双方の更なる理解向上に向けて

・ NGO-JICA の両者において、どちらかが上ではなく、またどちらかが正しいということではない、フラットな関係の構築を今後も推進する。

・ NGO-JICA の両者が、互いの協力量針の理解を促進する。

・ 日本国内において、NGO-JICA 間あるいは NGO 間で事業等の意見交換・情報が共有できる、肩ひじに張らない関係性の一層の構築を進めることも大切である。

関連して、両者が具体的な連携相談窓口を把握していない場合は、両者の公式 HP など事前に情報把握に努めることが肝要である。

・ JICA では安全管理の観点から事業実施が困難な地域があり、他方 NGO は限られた予算上事業の実施制約を受けやすいことなど、双方の組織的な制約への理解を向上する。

### 【まとめ・提案】

第2回目の勉介では、今後に向けて以下の提案がなされた。

- ① JPF 加盟の NGO 団体が、HDP ネクサスの分野に関連する NGO 事業をセクター別、地域別でマッピングしていたが、これをさらに更新し、両者の連携促進に活用していくことが提案された。
- ② NGO-JICA の事業理解促進向けに、NJ 協議会の勉強会を通じて、セクター毎（例：保健、農業、教育など）の NGO 事業及び JICA 事業に関して学びあうことが提案された。
- ③ 2024 年 4 月に実施される Global Refugee フォーラムのネットワーク会合において、これまでの UNHCR と NGO、UNHCR と開発機関（JICA）という個別での協議機会の設定だけでなく、合同の協議機会を設定してくように働きかけを行うことが提案された。
- ④ 緊急人道支援を扱うジャパンプラットフォーム（JPF）、同加盟 NGO、JICA 間で HDP ネクサスの協議機会を今後設けていくことが、JPF 加盟団体から提案された。

以上

# 市民参加協力事業の現状及び今後の方向性

## 2024年度 第2回NGO-JICA協議会用資料

2025年3月11日

JICA国内事業部 市民参加推進課

## トピック：

1. 2023年度第2回NGO-JICA協議会フォローアップ
2. 草の根技術協力事業 担い手拡充  
(JICA機構法改正)
3. NGO・NPOとJICAの協働について  
外国人材受入れ・多文化共生社会構築に資する取組

## トピック：

1. 2023年度第2回NGO-JICA協議会フォローアップ
2. 草の根技術協力事業 担い手拡充  
(JICA機構法改正)
3. NGO・NPOとJICAの協働について  
外国人材受入れ・多文化共生社会構築に資する取組

# 1. 2023年度第2回NGO-JICA協議会フォローアップ

## 2023年度第2回NGO-JICA協議会 議事録抜粋

- 寄附のメニューが増えたことによって、JICA基金へどのような影響があるのかは今後検証していく。
- 草の根技協について、開発協力の新たな担い手の参画及び基盤強化の機会の拡充を実現するために、制度改善にかかる具体策を今後検討していく。
- 草の根技協の手続きの合理化・迅速化は、業務・経理ガイドラインの更なる改定や審査期間の短縮化等の可能性を検討中。
- JICA基金活用事業を新たな担い手の参画の主要手段と位置づけ、規模の拡充の可能性を含め今後も検討する。
- 草の根技協については、①JICA基金活用事業等で一定の開発協力経験を積んだ担い手が参入しやすくなること、②草の根技協の経験を通じて企業等との共創事業を含め開発協力への参画方法にかかる将来の選択肢が広がることに重点をおいた見直しを行う。

## ① 寄附事業

### ◆ フォロー事項

JICAの寄附メニュー増による、JICA 基金への影響

### ◆ 取組事項

寄付月間賛同パートナー、寄附に関するSNS発信、遺贈セミナー等

### ◆ 寄附の受入及び活用状況

件数、金額とも昨年度と比べ増加又は増加傾向。

受入状況 2024年12月末現在	2024年度累計 第1～3四半期		2023年度累計 通年	
	件数(件)	金額(千円)	件数(件)	金額(千円)
メニュー				
JICA基金	498	31,789	595	21,785
他の寄附メニュー	67	1,060	11	88



# 1. 2023年度第2回NGO-JICA協議会フォローアップ ②草の根技術協力事業・JICA基金活用事業

## ◆ フォロー事項

開発協力の新たな担い手の参画

## ◆ 取組事項

- 審査配点の一部変更:草の根技協の実施経験のない団体への加点。
- JICA基金活用事業の採択数増加。2024年度は44件を採択し、2023年度と比べて採択数は増加した。

【参考】2022年度までの平均約11件、2023年度36件。

## ◆ 今後の検討事項

- 草の根技協パートナー型の新たな金額規模枠の導入。
- JICA基金活用事業の規模の検討。



# 1. 2023年度第2回NGO-JICA協議会フォローアップ ②草の根技術協力事業・JICA基金活用事業

## ◆ フォロー事項

手続きの合理化・迅速化

## ◆ 取組事項

- 業務・経理ガイドライン改定(2024年6月)
- 審査期間の短縮化  
支援型締切:10月初旬⇒11月末  
パートナー型・地域活性型⇒変更なし



# 1. 2023年度第2回NGO-JICA協議会フォローアップ ②草の根技術協力事業・JICA基金活用事業

## ◆ フォロー事項

基盤強化の機会拡充

## ◆ 取組事項

- JICA基金活用事業における伴走支援者配置
- 「NGO等向け基礎からはじめる国際協力事業研修」に組織運営経験が浅い団体・スタッフ向けコースの検討
- NGO等提案型プログラムの継続

## ◆ 今後の検討事項

- その他の基盤強化の機会について継続検討



# 1. 2023年度第2回NGO-JICA協議会フォローアップ ②草の根技術協力事業・JICA基金活用事業

## ◆ フォロー事項

開発協力への参画方法の選択肢の拡大

## ◆ 取組事項

- JICAとの連携（HDPネクサス勉強会の実施、JICAグローバル・アジェンダ関連情報の提供等）

## ◆ 今後の検討事項

- JICA、企業、大学・研究機関、他の開発パートナー等との関係構築に向けた取組を今後も検討していく。

## トピック：

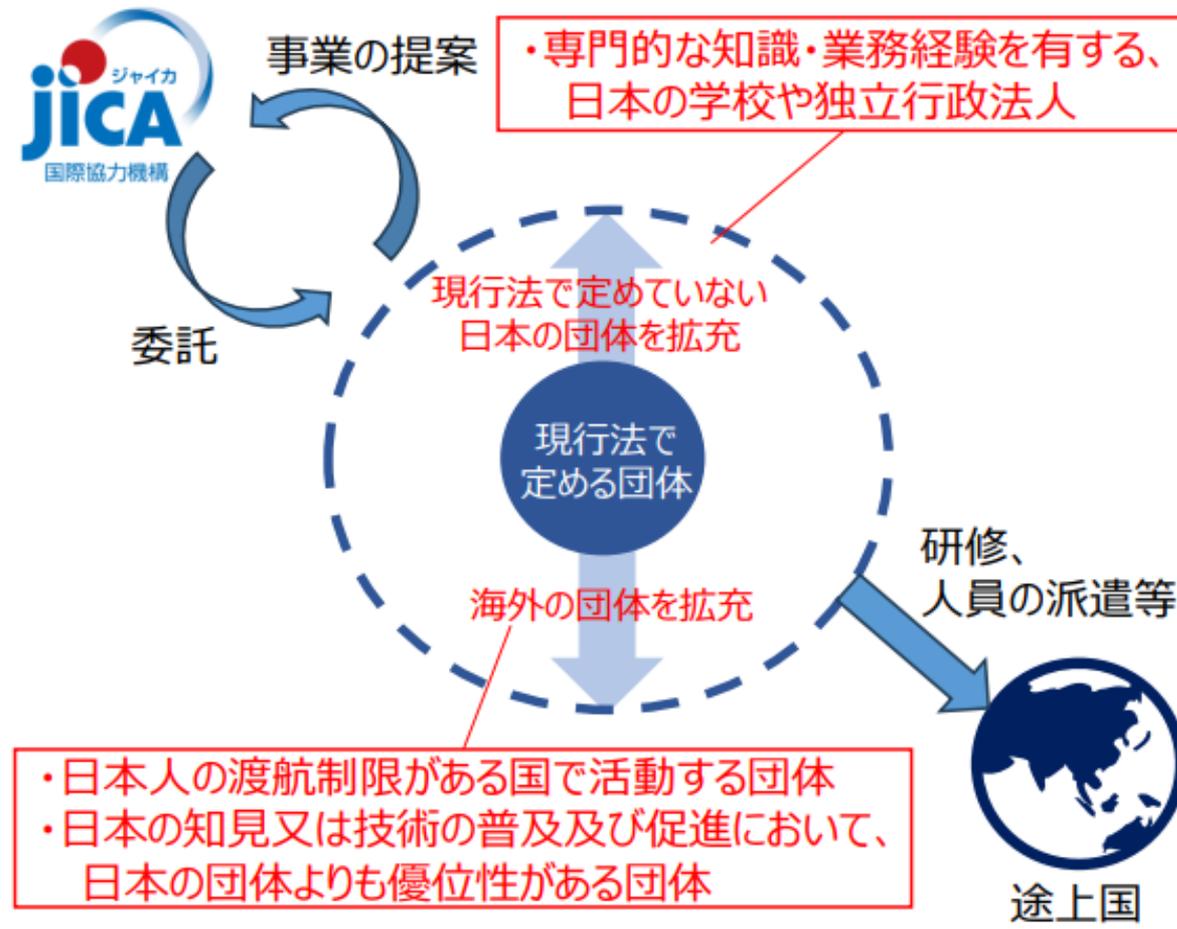
1. 2023年度第2回NGO-JICA協議会フォローアップ
- 2. 草の根技術協力事業 担い手拡充  
(JICA機構法改正)**
3. NGO・NPOとJICAの協働について  
外国人材受入れ・多文化共生社会構築に資する取組

## 2. JICA機構法改正 草の根技術協力事業 担い手拡充

外務省資料より <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100796361.pdf>

### 国内外の課題解決力を有する主体との連携強化

①草の根技術協力のパートナー拡充：一定の条件を満たす我が国の独立行政法人や海外の団体等にも拡大する。



## トピック：

1. 2023年度第2回NGO-JICA協議会フォローアップ
2. 草の根技術協力事業 担い手拡充  
(JICA機構法改正)
3. **NGO・NPOとJICAの協働について**  
**外国人材受入れ・多文化共生社会構築に資する取組**

【これまでの経緯 2022～2023】

#### (1)2022年度NGO-JICA協議会

「外国人材受入れ・多文化共生社会構築に資する取り組みに関するJICAとNGOの協議の場の設置」

(2)2023年度に勉強会を4回(①～④)開催

①NGOの取組紹介②JICAの取組紹介

③協働の必要性や可能性について議論

④地方での現場把握

# 3. NGO・NPOとJICAの協働について

## 【2024年度の取組】

### 『茨城の外国ルーツの子どもたちの未来を考えるネットワーク』IBARAKI LINK

- 茨城県県西地域での課題に関し、外国人の支援者（NPO、地域おこし協力隊）との意見交換。
- 外国人が経営する自動車解体業を見学。
- 茨城県内で外国人支援を行っている個人・団体と意見交換。
- 「外国籍家庭向け 日本の教育ガイダンス」への協力。



がいこくせきかていむけ  
**外国籍家庭向け**

にほんのきょういくがいだんす  
**日本の教育ガイダンス**

2025年1月12日(日)  
13:30～16:30

たけしつぎ  
託児  
付き

**参加  
FREE**

申込み/apply  


地図/map  


やちよちよつとよしかん  
会場：八千代町立図書館  
住所：茨城県結城郡八千代町菅谷 561-1

にほんのきょういくがいの  
**第1部：日本の教育概要**

13:30～15:00

日本の幼児教育、義務教育、  
高校入試、受験勉強の方法、  
学費、奨学金など説明

たげんご（ぼご）つうやくあり  
**多言語（母語）通訳あり！**

タイ語・タガログ語・ベトナム語・シンハラ語  
インドネシア語・中国語・スペイン語・ウル  
ドゥー語・英語・ベンガル語・ヒンディー語  
やさしい日本語、他

主催：IBARAKI LINK (IL)  
Network for the Future of Children with Foreign Roots

シヤンパ・国際ボランティア会  
Shanti Volunteer Assoc. SHANTIPANEER  
CINGA COMMONS 茨城県国際交流協会  
後援：茨城県教育委員会

こべつそうだん  
**第2部：個別相談**

15:00～16:30

質問や悩みを母語で相談OK  
秘密厳守で対応

申込み・問い合わせ先  
特定非営利活動法人 国際活動市民中心(CINGA シンガ)  
東京都千代田区神田神保町2-3 神田古書センタービル6F  
6F, kandakoshi center 2-3, Kanda jinbocho Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0051, Japan

event@cinga.or.jp  
03-6261-6225  
https://www.cinga.or.jp

#### 【IBARAKI LINK参加メンバー】

- 特定非営利活動法人国際活動市民中心(CINGA)
- 特定非営利活動法人茨城NPOセンター・ commons(commons)
- 公益財団法人茨城県国際交流協会
- 八千代町地域おこし協力隊
- 特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会
- 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
- 独立行政法人国際協力機構

#### 【今後のJICAとしての取組】

#### ●地域の主体的な取組の側面支援の継続

- 自治体等の公的機関とNPO等の支援者による活動のつなぎ役。
- 活動情報を関係者に共有、参加促進。

#### ●JICA関連事業経験等の活用

- 他の地域での取り組んでいる情報の共有。
- 海外での技術協力事業等の知見の活用の検討。

#### ●取り組んだ内容についての還元

- 勉強会開催 3月26日（水）15:00～16:30